

地域密着、身近な話題を体験取材!

まちかど

特派員だより

冬の自然探検!

上尾の冬の自然を楽しもうと、早朝、3密を避けて大石地区の草原と平地林の探検に出掛けた。荒川沿いの上尾サイクリングロードに出掛け、寒さでしおれかけた広大な草原を眺めた。秋に多かったイナゴは産卵を終え、陽だまりで静かに暖を取っていた。荒川左岸の灌木林かんぼくほりの西方には、富士山がかすんでいる。冬晴の富士山はインスタ映えする。望遠をのぞくと斜面の起伏があらわになる。南進し、散歩の拠点といえる、上尾丸山公園のアップーお休み処にきた。さらに南へ向かうと荒川土手から富士山が大きく見える。途中、竹林の茂みを超え、開平橋手前まで眺望は続

く。青空にトビが数羽飛び回る、鳥瞰ちやうくで草原の獲物を探しているようだ。道路沿いには枯れかかったセイタカアワダチソウやジョンソングラス、ススキに秋の残留個体のトノサマバツタが時折出現する。アップーお休み処に戻り、上尾丸山公園の西側の平地林を北上した。途中のササやぶにはウグイスが地鳴き、さらにツグミ、モズに出会った。

次いで、豊かな緑地と避暑地で有名な、上尾市藤波・中分ふるさとの緑の景観地(昭和56年3月県指定)を目指した。この景観地は約6.3畝、コナラやミズキ、クスギ、カシなどが繁茂し森林浴ができそうだ。草刈り保全などの普段の管理は、「下芝・緑と里山を守る会」のボランティアにより行われている。周辺の空き地には多様な植物が植栽されている。そのボーダー花園は有志により保全され、チョウの食草であるホトトギスやウマノスズクサも植栽され、陽だまりでは越冬中のキタテハ、キタキチヨウ、ルリタテハなどが見られる。

大石地区
平井 一男さん



荒川沖に望む富士山



下芝・緑と里山を守る会

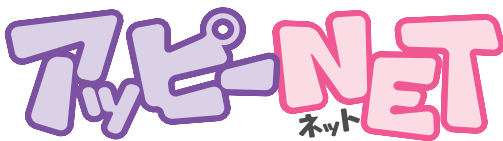


メジロと手作りバードフィーダー



越冬中のルリタテハ

市民の情報交流スポット



広報広聴課 ☎775-4918・☎776-8873

アップーNET掲載団体募集

アップーNETは市民の皆さんの交流の場として、催しなどへの参加者募集[おいでください]と、各団体のサークル会員募集[いきいきサークル]を掲載しています。観客を増やしたい・会員数を増やしたい団体は気軽に申し込んでください。申し込み方法など、詳しくは市ホームページをご覧ください。



おいでください

- NHKラジオ英会話を聞かす会 12月～令和4年2月の毎週(月～木)12:10、21:00、谷津公民館 ☎月額500円 ☎前日までに 榎川☎090-9294-8192 **ひと言!** 12時10分と21時半。予習・聴取・復習の順に行う。
- 小説サークル・上尾開催 12月18日(出)13:00～16:30、文化センター 定15人 ☎1,000円(学生無料) ☎日 山口☎090-7249-3155(20:00まで) **ひと言!** 小説の書き方と自分史の書き方。夢が広がります。

いきいきサークル

- すずらの会(筆ペン・ボールペン習字) 毎月2回(月)10:00～12:00、原市公民館 ☎月額2,000円 ☎本田☎721-3445 **ひと言!** 初心者対象です。年賀状練習、うちわ、カレンダー作成。
- アップル(卓球) 毎週(木)15:00～17:00、市民体育館 ☎月額500円(入会金1,000円) ☎佐野☎774-5538(18:00以降) **ひと言!** 初心者の人々に素振りから始め卓球を楽しめるように!

- 俳句 講座 毎月第3(土)13:00～17:00、大石公民館 ☎月額1,000円 ☎金子☎090-3545-9622 **ひと言!** 初めての人大歓迎。まずは見学にどうぞ!





「今の自分に何ができるか、役割や存在意義を考えた時、それを実現できる最適な答えが上尾でした」。そう話すのは「上尾ごはん」店主の町田雄一郎さん。上尾に店を構える以前、町田さんは2年間フランスのレストランで修行したのち、東京でフランス料理店を立ち上げました。その店は、有名なグルメガイドブックにも掲載され忙しくも充実した日々を過ごしていたと町田さんは当時を振り返ります。

町田さんに転機が訪れたのは、平成23年の東日本大震災。自分のキャリアで何か役に立つことはないかと、賛同してくれる生産者や小売業者など、仲間たちの想いをつなぎ被災地に向かいました。宮城県南三陸町では、ボランティアとして現地の人と協力して食材を調達し、限られた材料でも、何とか炊き出しを続けました。炊き出しを行っている町田さんたちに対し、現地の人からお礼として郷土料理をごちそうになることもあったそうです。食を通じて地域のひととの触れ合いや、宮城県の方言で「ぎりすべ」と呼ばれる

スポット ライト

～人・仲間～



まちだ ゆういちろう
町田雄一郎さん
(市内在住)

「食」を通じて伝統、文化、地域、人、想いを「つなぐ」

上尾の魅力発信のレシピ

町田さんは、上尾市は、「地方に行ったら自分が求めていた日本があった」と感じたそうです。以後、群馬県片品村や三重県尾鷲市など各地の町おこし事業に積極的に参画し、地域の人や行政と協働で、その地域の伝統や文化などの魅力を生かしたご当地メニューの開発などを行い、地方の魅力発信に携わりました。

そんな町田さんが、次の活躍の場として選んだのが、生まれ育った上尾です。「上尾市は、若い世代が多く、次世代につなぐ環境が整っていると感じます。また、新しい文化を受け入れてくれる土壌がありいろいろな形を実現しやすいです」とまちの魅力を話します。自分自身がそうであったように、上尾がいつの日か帰ってきたい・訪れてみたいという場所になるように上尾の魅力を市内・外に発信したいとの思いからお店の名前を「上尾ごはん」にしました。

町田さんは魅力ある上尾を次の世代にもつなげていきたいと国内・外の各地を見てきた経験を生かし、市内中学校の授業で講師を務めるなど、活躍の場を広げていきます。

生まれ育った上尾の魅力を市内・外に広めるという町田さんの新たな挑戦は、次の世代へ向けてつながっていくでしょう。



「クイズ アッピーを探そう！」(2ページ参照)で寄せられた『広報あげお』への感想・意見を紹介します。今月は11月号です。

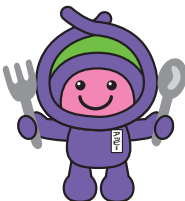
⇒ 広報広聴課 ☎775-4918・☎776-8873 ※内容は一部要約しています。



あげおグルメ応援お食事券を発行

- コロナが落ち着いてきたところで、あげおグルメ応援お食事券を購入してみようかなと思いました。ですが、気は緩めないで対策します。(50代・女性)
- これを機にコロナ禍で遠ざかっていたお店に久しぶりに行ってみたいと思います。(30代・男性)

引き換え購入時は十分な感染防止対策をした上でお願いします。ご協力お願いします。



特集 コミュニティセンター リニューアルオープン

- 生まれ変わったコミュニティセンターをぜひ利用してみたいと思います。(60代・男性)
- 新しくなるコミュニティセンターの様子が写真などで分かりやすく、待ち遠しくなりました。プレオープンイベントも楽しみです。(40代・男性)

子どもから大人まで幅広い年代が集えるリニューアルしたコミュニティセンターをぜひ楽しみに。



『広報あげお』は、読者の皆さんの感想を参考にし、より良い誌面作りを目指しています。これからも皆さんの感想をお寄せください。